

令和5年度ワールド・カフェ発表内容

A テーブル

気候変動対策の行動阻害要因とその解決策について意見を話し合いました。

知る機会の少なさや行動をしても効果が見えないこと、自分の利益にならないことが主な要因ではないかという意見が多くあがりました。

その解決策の1つとして、ナッジ理論を活用するという意見が出ました。ナッジ理論とは、人々の日常の選択や意思決定を微妙に誘導することで、特定の行動を促す理論のことで、代表的な活用事例としては、男性用トイレの便器に小さなハエの絵を描き、狙わせることで、清掃費を大幅に削減できたという例があります。それに加え、横浜駅などで実際に設置されている「投票型喫煙所」というものでは、灰皿に「あなたは犬派？猫派？」のような記載をして、中が見える作りにし、投票とゴミ捨て機能を合わせることでタバコのポイ捨てを減少させるという仕組みもあります。このように、人間が自然と行動を起こすような仕組みづくりができればよいのではないかと思います。

B テーブル

気候変動対策について、今やっていることとできていないことを話し合い、その中で得た気づきをまとめました。

マイバッグは定着しているが、できていないこととして、公共交通や自転車を使うこと、地産地消を意識した環境により買い物をするのがあげられました。

その理由として、便利に流されてしまうことや値段重視で買い物をしてしまうことがあげられました。

気候変動対策の行動を当たり前にするためには、経済・環境・教育が全て繋がっていることから、行政・事業者・町民がそれぞれの役割を意識し、働きかける必要があります。

C テーブル

循環する町づくりやコミュニティの大切さについて話し合いました。

防災と環境は深くかかわりがあり、自給自足のできる町にすることがとても大切です。

高度経済成長期によって、生活が大きく変化しましたが、その結果として現在の環境

を作りあげてしまったと思います。手間を惜しんで楽な方に流されるのではなく、手間を楽しむ暮らしやスローダウンした生活をするのが大切だと思います。

すぐに結果を求めるのではなく、今回のようなイベントの開催等を通じて少しずつ環境活動の輪が広がっていけばよいと思います。そのようなコミュニティが広がることは環境の面だけでなく、日常生活の中でも大切なものだと感じます。